

花 信

Kashin: The Shinshu University Library Bulletin

第8号 2000.9

目 次

学習と図書館	1	お知らせ	7
重複外国雑誌・電子ジャーナル等について ...	2	(平成11年度 図書目録週及入力 実施結果)	
平成12年度「情報の収集と活用」		(本学関係者著作寄贈図書)	
支援無事終了	5	分館だより(工学部分館)	9
「NACSIS-IR地域利用説明会」開催		運営委員会名簿・業務日誌	10
信州大学授業公開に伴う図書館見学について ...	7	人事異動	11

学 習 と 図 書 館

工学部分館長 田 坂 雅 保

大学時代、私は工学部化学系の学生であった。学生時代に図書館でよく利用した書籍に、Beilsteins Handbuch der organischen Chemieがある。学部に進学して、最初の有機化学実験の各自のテーマが少しずつ違っていて、スルホン化実験をするにも、出発物質がベンゼン、トルエン、キシレンなどと異なり、それぞれ実験方法を各自で調べてからでないといけないことができなかった。実験方法が、日本語で書かれている本がある場合でも、Beilsteins Handbuchで確かめてからという形で進められた。大学に入って初めてドイツ語を習い、即実用であった。まさに、ドイツ語の学習にも打ってつけであった。授業と図書館は密接につながっていた。また、専門書の出版も現在ほど多くなく、価格も高かったので、学生にとって図書館は教育を受ける上で必要不可欠であった。現在では、日本語の専門書の出版物も多くなり、学生各自が学習に必要な書籍を購入することは、以前よりは容易になっている。しかし、講義の予習や復習に必要な新しい参考書が図書館にもっと充実していれば、教師から出されたレポートや宿題をまとめるときに、足がもっと図書館に向かうであろう。大学としては、学生に必要な図書をもっと図書館に充足する必要がある。

専門の化学を学習・研究する上から、ドイツ語の必要性は以前より低くなり、有機化学実験でもBeilsteins Handbuchを利用することは少なくなった。しかし、他の新しいよい専門書が多く出版されてきている。教科科目を履修する上で、またレポートを書くときに必要な書籍は、クラスの数人が一度に調べることができるように、図書館に単に1冊だけでなく複数揃えてある方が望ましい。

私の所属する工学部では、2・3年生用の学習用図書

費を今年度120から240万円に増額して、学習環境の整備を図ることになった。学生学習用図書の充実度が、その大学での学生の教育に対する取り組みの尺度としてみられることがある。その一つの基準に、学生の授業料の1%を学生用の図書に充てるというのがある。それによると、工学部での240万円はまだ半分である。学生用図書費を増額したことが、学生の学習環境の向上に有効に働き、さらに480万円に増額してもっと改善されていくことになればよいかと願っている。

ある教科科目を履修するとき、1冊の教科書だけを頼りにして学習するのではなく、多面的に複数の参考書を読みながら学習する習慣を身に付けて欲しい。講義のときに興味を持ち、そこで聞いたことの正確な内容を調べたり、紹介された理論の展開を詳しく調べたくなったときに、それらの調査に必要な書籍が図書館になくは困る。講義を通しての教師と学生のふれあいが、図書館を利用して深まることを期待する。

最近では、いろいろな事柄の概要を知るためには、ビデオなどを利用したものがとても充実してきた。科学や技術が進歩し、広く浅く全体を理解するためには、テレビやビデオなどはとてもありがたい。しかし、自分の専門分野の科学技術について深く学習し、理解しようとするときは、専門書籍を精読することが不可欠である。学生には、それぞれの分野における、基礎となっている論理・法則を、自らじっくりと納得いくまで学習する習慣を早くから身につけて欲しい。学生に必要な図書が図書館に充実して、図書館がもっともっと活気の出ることを期待する。

(たさか まさやす)

重複外国雑誌・電子ジャーナル等について

本学で重複購入している外国雑誌の共同購入による削減については、本年3月に全教官宛にお知らせし、館報第7号(平成12年3月)にも掲載しましたが、2001年購入分として8雑誌が成立しました。このような調整方法の提示は今回が初めてであり、これに関連して電子ジャーナルの利用方法等についてもご質問等がかなりありました。今年提示しました調整方法等については来年以降も継続する予定ですので、ご質問等の中から共通的なもの及び電子ジャーナルに関する情報などをご紹介します。重複購入雑誌の削減につきましては、今後も引き続いて検討していただくようお願いいたします。 情報管理課

平成12年度重複外国雑誌の電子ジャーナル利用による 共同購入に関するQ&A

- Q1 冊子体の雑誌は図書館から現物が届き確認できたが、電子ジャーナルとなると何時発行されたのかわからないので、新着雑誌の案内がもらえないか？
⇒ 有料の電子ジャーナルの場合、発行業者から雑誌案内メールを送るサービスを実施しているところもあるようです。
本学で提供している「外国雑誌目次提供システム」(Swetcan)のSDIサービス(特定情報の連絡)に登録することで可能となります。
{論文検索の留意点などを最後に掲載しています。}
- Q2 購入按分類を複数教官で分担することは可能か？支払方法は？
⇒ 全く問題ありません。冊子体購入部局への予算振り替えとなります。
- Q3 3年間継続することは絶対か？テスト的に実施してみたい！
⇒ 中止は可能です。テスト的に実施でも今回は差し支えありません。
(電子ジャーナルでの利用が極めて不便な場合等に、中止することは可能です。)
- Q4 教官研究費(一人あるいは複数)で購入している雑誌については、個人購入とならないのか？
⇒ 校費で購入する雑誌は、信州大学として契約するので全て機関購入となります。電子ジャーナル利用に関して、個人購入ならば無料ですが、機関購入の場合は有料というものが相当程度あります。
- Q5 電子ジャーナル利用形態について？
⇒ 機関契約の場合、現状では概ね次のような形態があります。
- | | | | |
|-------------------------------|---|-----------------------|---------------------|
| I P アドレス方式 | { | Bクラス | 信州大学全キャンパス利用可能 |
| | | Cクラス | 同一セグメント利用可能(3桁目が同じ) |
| 注) 出版社により、単純にはB及びCクラスに二分できない。 | | | |
| I D ・ P W方式 | { | 同時アクセス数に制限なし | |
| | | 同時アクセス数に制限あり(3くらいが多い) | |
- 特定利用P C登録方式
なお、最近冊子体雑誌だけの販売を中止する出版社が出てきています。
(電子ジャーナルだけ、あるいは電子ジャーナル+冊子体雑誌のどちらかの選択)

Q 6 過去分の電子ジャーナルは、どの程度利用可能か？

⇒ 過去数年分は利用できる雑誌が多い。

過去分の外国雑誌を電子化し、提供しますという業者からの案内がありました。

例) JSTOR (Journal storage)

1995年米国の大学を中心に、主要な学術雑誌のバックナンバーをオンライン上で提供するために設立された非営利機関。東大が日本で初めて参加。

Q 7 冊子体雑誌の中止に関して、既に電子体（無料かつ登録済みの場合）を使っている他の部局等の利用者についても考慮したほうがいいのではないか！

この場合、誰がどの程度利用しているか把握できないので教えてほしい？

⇒ 利用回数については把握できませんが、ID・PW方式の場合は申込された利用者は分かります。（ただし、今までの分については記録していません。）

なお、冊子体雑誌を購入し、電子体の利用が無料かつ登録済みの場合はお知らせしています。（現在全学購入雑誌概ね1800タイトル中、中央館約70タイトル、医学部分館約120タイトル、工学部分館約60タイトル、農学部分館約30タイトル、医短約6タイトルを図書館ホームページで案内しています。）

Q 8 ScienceとNatureについては、全学で利用できるようにならないか？

⇒ 両方とも有料です。

Science 利用料金は、本学4サイト信州大学全教職員及び全学生等利用者12,000人以上とすると、687,500円になります。現在全学で10部購入していますが、冊子体1部料金は約4万円ですから10部×4万円=約40万円で、現状より高くなります。各購入者が按分して負担する方法を全学の購読者に提案しましたが、殆どの部局が不参加となり成立しませんでした。特定利用PC登録方式（サイト契約利用料金と異なる）についても、現在のところ導入予定の部局はありません。

電子ジャーナル（パッケージ的商品）に関する情報

◎ProQuest Medical Bundle Package

360誌以上の医学／看護学／薬学系雑誌の全文とイメージが、インターネットで閲覧できるパッケージ型のオンライン全文データベースを、今年4月から本学で契約しています。4サイト信州大学全教職員及び全学生等が利用できます。医学系全文数据库では世界最大のコレクションといわれ、記事のアップデートが毎日行われています。ただし、収載タイトルは、予告等無しに変更があります。

◎New! 「OCLC First Search」

- 1) 従来のFirst Search（書誌データベース）とECO（電子ジャーナルデータベース）が共通のインターフェースで統合されました。
- 2) 内容（全体で80以上のデータベース）
 - First Search（50以上のデータベース）
 - 学術雑誌フルテキスト（約6,000誌）
 - 電子ジャーナルのフルテキスト・イメージ（50社以上の学術雑誌出版社が発行する2,500誌以上の電子ジャーナル）

※北信越地区コンソーシアムに本学も参加、無料トライアルが10月16日(月)から11月15日(水)まで1カ月実施されますので利用してください。

◎エルゼビア・サイエンス社発行の雑誌(約1,100誌)

同社の発行雑誌は、個別タイトルの電子ジャーナルだけを利用できません。(冊子体とセットで可能です。なお、アカデミック・プレス社も同様な販売方式です。)

電子ジャーナル商品として、次の4つがあります。詳しくは各館室にお問い合わせください。

- ・ Science Direct (SD) 基本商品
- ・ SD-21 日本向け1999年-2000年商品として企画された
- ・ SD-21 Plus SD-21参加機関向けの2000年限定商品
- ・ Science Direct Web Editions Service

※冊子体を購読しているタイトルの直近9カ月分が利用可能です。(検索機能はありません。)

本学で提供中

「外国雑誌目次速報DB」 Swet Scan **論文検索の基本点** など

検索用インデックスは、論文のタイトルから切り出されたワードが主となっています。(aやtheなど冠詞類は除く。) キーワードやソーラス用語は付加されていません。また、アブストラクトもなくヒットしにくいいため、次のようなことを参考にしてください。

①一般的に同じような内容を意味する同意語が多数ありますが、著者により使用する用語が異なります。このため、専門用語辞典などにより検索語を網羅的に指定する。(同意語辞書の組み込みを業者に依頼していますが、実現は難しい状況です。)

②名詞(単数形・複数形)及び形容詞などを、両方とも検索語として指定する。論文タイトルは短いので、どちらかの形でしかタイトルに入っていないことが多い。

例) 1997年分(2000年8月15日現在)

science 1421件 sciences 256件

science × (and) sciences 5件

science + (or) sciences 1672件

◎science% 1736件 [この場合は前方一致検索が効果的]

◎scien% 2328件

③Subject Code(サブジェクトコード)の併用利用。

注) 検索結果集合が、それぞれ1万件を超えるような検索式指定は、現在のところヒット件数0(ゼロ)となりますのでご注意ください。

平成12年度「情報の収集と活用」支援無事終了!!

平成12年度前期の共通教育科目「情報の収集と活用」(人文学部中嶋間多助教授担当)への支援は7月26日の最終講義をもって無事終了しました。

図書館による授業への関わりは平成10年度から始まり今回で3回目ということになります。今回は過去2回の実績をふまえ、それぞれの良い点を包括した形での実施となりました。

テーマと実習資料は以下のとおりです。

日 程	テ ー マ	実習で使用した資料等
5/10	参考図書・データベース 情報の探索	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の参考図書解説総覧 ・Guide to reference books ・Walford's guide to reference material ・書誌年鑑
5/17	言語・文字情報の探索	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国語大事典 ・大漢和辞典 ・Oxford English dictionary ・Webster's third new international dictionary of the English language ・聖書語句大辞典
5/24	事物・事象情報の探索	<ul style="list-style-type: none"> ・世界大百科事典 ・日本大百科全書 ・New encyclopaedia Britannica ・Encyclopedia Americana ・新教育学大事典 ・世界科学大事典
5/31	歴史・日時情報の探索	<ul style="list-style-type: none"> ・国史大辞典 ・MARUZEN科学年表 ・朝日年鑑 ・World almanac & book of facts
6/7	地理・地名情報の探索	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県百科事典 ・現代日本地名よみかた大辞典 ・世界地名大辞典 ・角川日本地名大辞典
6/21	人物・団体情報の探索	<ul style="list-style-type: none"> ・世界伝記大事典 ・岩波西洋人名辞典 ・人物レファレンス事典 ・東洋人物レファレンス事典 ・World of learning
6/28	図書情報の探索	<ul style="list-style-type: none"> ・OPAC ・NACSIS-Webcat ・TRC新刊書籍検索、新刊案内
7/5	雑誌情報の探索(1)	・データベース(雑誌記事索引、SwetScan)
7/12	雑誌情報の探索(2)	・NACSIS-IR
7/19	新聞・インターネット情報の探索	<ul style="list-style-type: none"> ・信濃毎日新聞データベース ・YahooJapan, goo

情報リテラシー教育支援は、本学のみならず、近隣の大学では金沢大学や新潟大学等で実施されています。

本学では、教官の講義に対する実習補助にとどまらず、レファレンス資料を介して授業と図書館サービス(カウンターでの対応、レファレンス資料の収集)との相関的な展開が意識されており、このことが大きな特徴と言えると考えます。図書館職員の主たる担当は、授業の中での実習です。各テーマにそくしたレファレンス資料4種を2人一組となって内容・使用法等の説明を行うことが実習の主な内容です。実習を中心とした支援の具体的な内容は以下のとおりです。

- 1) 実習を効果的に進めるための例題作成及び学生への宿題作成
- 2) レファレンス資料の概要を紹介する資料の作成
- 3) 実 習
- 4) 宿題に関しての中央図書館カウンターでのレファレンス
- 5) 宿題の確認

出題した宿題は、例えば、情報源に『国史大辞典』を想定したものとして、「渡辺華山が田原藩(三河国田原)で『格高制』を導入したというのが、その読みと制度の概要を調べよ。」といったものです。

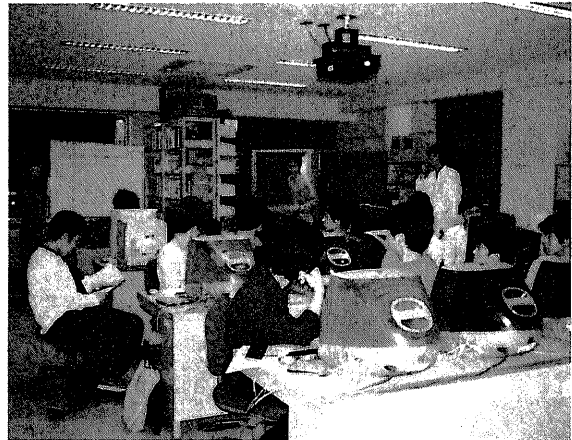
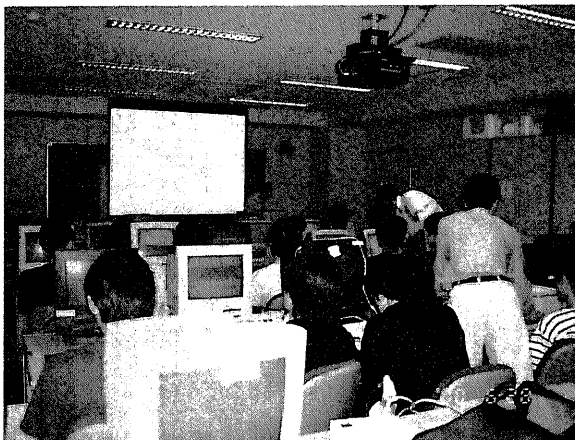
また、平成10年度と11年度では中央図書館の職員のみでの関わりでしたが、今年度はレファレンス担当職員研修の一環として分館の職員も参加しました。

以下に携わった職員名を記します。

菅原英一・桃井栄一・丸山恭子(中央図書館)、小島浩子(教育学部分館)、川西玲子(医学部分館)、瀬尾明範・滝口智子(工学部分館)、野口眞澄(農学部分館)、鳴澤直子・宮下綾(繊維学部分館)

受講学生は、人文学部、経済学部、教育学部、理学部、工学部、農学部、繊維学部所属の1年生62名です。所属学部は医学部を除く全学部であり、情報リテラシー教育が学問分野にとらわれない共通性を有していることを現しています。

授業の最後に「図書館実習アンケート」を行いました。設問の一つに「この授業で学んだことは今後の学習・研究に役立つか」がありますが、回答総数60のうち、「大いに役立つ」が33、「多少役に立つ」が26、「どちらとも言えない」が1でした。「あまり役立たない」「役立たない」は0でしたので、最低限の役割は果たせたと評価しています。



「NACSIS－IR地域利用説明会」開催

国立情報学研究所・信州大学附属図書館共催の「NACSIS－IR地域利用説明会」を、8月31日（13：30～16：30）に総合情報処理センター松本分室教育用端末室をお借りして行いました。

講師は本学職員が担当し、他大学2名・本学教官院生等13名・本学図書館職員20名の合計35名が参加しました。

国立情報学研究所の情報検索サービス（NACSIS－IR）は、平成12年1月よりWeb版のインターフェイスでのサービスを新たに開始しており、同説明会でもコマンドなしの利用方法を中心に説明及び実習が行われました。

信州大学授業公開に伴う図書館見学について

本学では、昨年に続いて、平成12年6月12日から6月16日までの間、主として高校生・予備校生を対象とした授業公開を実施しました。大学進学を目指す受験生に信州大学の特色等を理解するための機会を提供し、進路決定に役立ててもらうのが目的です。

附属図書館の見学が授業公開の一環としてプログラムされ、開架書架・特徴的なコレクション・インターネット接続端末を中心とした館内見学を実施しました。

	受講者数	図書館見学者数	図書館
人文学部	84	56	中央図書館
経済学部	49		
理学部	38		
共通教育セ	40		
教育学部	152	13	教育学部分館
医学部	26	7	医学部分館
工学部	65	16	工学部分館
農学部	36	4	農学部分館
繊維学部	39	9	繊維学部分館
合計	529	105	

お 知 ら せ

平成11年度 図書目録遡及入力 実施結果

	冊数	対象分野
中央館	6,172	芸術：109冊、言語：603冊、文学：3,134冊、その他：2,326冊
教育学部分館	2,460	教育学：1,758冊、その他：702冊
医学部分館	549	全て医学
工学部分館	4,423	全て工学
農学部分館	2,599	社会科学：1,110冊、自然科学：1冊、技術：741冊、産業：747冊
繊維学部分館	769	全て自然科学
医短図書室	2,315	全て医学
合計	19,287	

本学関係者著作寄贈図書一覧

(平成12年2月～平成12年8月)

	書名	発行者	出版年	寄贈者	所属
中央館	戦間期中国(自立への模索)	東京大学出版会	1999	久保 亨	人文学部
	2000青少年のための科学の祭典 松本大会	(財)日本科学技術振興財団	2000	吉江 寛	理学部
	講説 民法(物権法)	不磨書房	2000	後藤泰一	経済学部
	フランス・ベーコンの哲学	東信堂	1995	石井栄一	名誉教授
	ディスクール(の)帝国	新曜社	2000	和田敦彦	人文学部
	あがたの森に学び舎は生きる —文化財の保存と活用—	信州大学文理学部同窓会 母校跡地保存運動史編纂会	1999	馬瀬良雄	名誉教授
	日本文様史	雄山閣出版	2000	上條耿之助	元文理学部
	はかってなんぼ 分析化学入門	丸善(株)	2000	樋上照男	理学部
	村が語る沖縄の歴史	新人物往来社	1999	笹本正治	人文学部
	鳴動する中世 —怪音と地鳴りの日本史—	朝日新聞社	2000	笹本正治	人文学部
	国策会社・東拓の研究	不二出版	2000	金 早雪	経済学部
教育学部 分館	新拾遺集総索引	明治書院	1999	滝澤貞夫	元教育学部
	王朝和歌と歌語	笠間書院	2000	滝澤貞夫	元教育学部
	信濃の古典文学	信教出版部	2000	滝澤貞夫	元教育学部
	自然体験活動の方法	日本教育科学研究所	1999	平野吉直	教育学部
	わかる・みつかる・できる	内外学生センター	1999	平野吉直	教育学部
	死と豊穡の民俗文化	吉川弘文館	2000	藤森祐治	教育学部
	情報化社会の進展と地方都市のまちづくり	信州経済地域研究会	2000	石澤 孝	教育学部
	情報学	学術図書出版	2000	森山 潤	教育学部
	総合的な学習の教育経営ビジョン	信濃教育会出版部	2000	山崎保寿	教育学部
	小さき社の列島史	平凡社	2000	牛山佳幸	教育学部
「特別活動の理論と実践」における教育内容・方法に関する開発研究		2000	下田好幸	教育学部	
農学部 分館	身近な気象・気候調査の基礎	古今書院	2000	牛山素行	元農学部
	信州大学教育学部五十年誌	信州大学教育学部創立50周年記念事業実施委員会	1999	信州大学教育学部	教育学部
	韓国・台湾における家族経営と農村社会の変貌過程に関する研究	加藤光一	2000	加藤光一	農学部
	英語リスニング・スピーキングの基礎	信州大学教育システム研究開発センター	2000	信州大学教育システム研究開発センター	信州大学
繊維学部 分館	地球環境と材料	裳華房	1999	山田興一	繊維学部
	山田語録	Y高等研究所	2000	山田 瑛	元繊維学部
医療短大 図書室	やさしく学ぶ看護理論	日総研	1996	鈴木泰子	医療短大
	カルペニート看護診断マニュアル第2版	医学書院	2000	大久保 功子	医療短大
	看護実践を記述する用語の構造の解析および用語体系の構築に関する基礎的研究		2000	大久保 功子	医療短大

分館だより : 「 ! こんな本が・・・」

工学部分館

皆さん、こんにちは。こちらは工学部の図書館です。

今回は珍しい本?と 図書館の近況について紹介させていただきます。

工学部の図書館というと、「工学系の本ばかり並んでるんじゃないだろうか。」
なんて思っている学生の方はいませんか? 実際はどうでしょうか。中へ入ってみましょう。

ようこそ

ようこそ 図書館へ

『江夏の法則』－草野球バイブル－ (配架場所 / 教養図書コーナー 783)

野球の技術書ですが、心理もでています。例えば江夏さんは、他球団の選手に一声かけて、その時、目を見て答えてくるタイプ（目立ちたがりの性格）か、ボソボソ話すタイプかを記憶していました。そして試合でカウントが2－3になった時、目立ちたがりの打者には、わざとボールを投げていたそうです。すると、ほとんど振ってくれて三振がとれたとのことでした。

心理学を勉強している学生さん、見に来てみませんか?

『大阪弁』 (配架場所 / 文庫本コーナー 081)

『女性のことば・職場編』 (配架場所 / 留学生コーナー 814)

大阪弁の終わりには、せやろ、言うねん、よう言わんわ など信州弁にない味わいがあります。また女性ことばの終わりには、行くわ、いいのよ、いいかしら など、その場の空気を丸くする響きがあります。『女性の…』が留学生コーナーにあるあたりが、工学部の魅力?でしょうか。

「終助詞を勉強している学生さんが、読みに来たらしいのになあ。」と思います。

そこで“文系の方は理系の図書館へ、理系の方は文系の図書館へ”足をのばしてみても、いかがでしょうか。よい本に出会えるかもしれませんし、普段読まない本や雑誌を読んで刺激を受ければ、今後のレポート・論文にオリジナルの切口・発想が出ると思います。

♪ 次に近況です。

先日、地元の観音寺さんで、お祭りがありました。手作り灯ろうが夜道にずーと並んでいて、

はるか道の向こうまでロウソクの炎がゆらゆらと揺らめいているといった、幻想的な夜祭りです。その幻想的なところは、遠く東北、秋田の竿灯に似ています。

それぞれの灯ろうには・・・「スポーツ欄 探せば息子 読んでいる」・・・などを書いてあり、ました。そういえば工学部でも新聞のスポーツ欄は人気があり、なかでも『日刊スポーツ』は、学生の一番人気です。新聞といえば、この4月よりファイリング方法を改良し過去の分が見つけやすくなりました。

今年は、工学部学生用図書費が120万円増額されましたので、2・3年生用の学習参考書に力を入れていきます。2・3年生のみなさん、ご期待ください。

今回、カード目録の棚を並べ替えましたので、古い本の検索がしやすくなりました。また、蔵書検索専用の端末を使いやすい場所へ移動し独立させました。

今後もいろいろな点を改善して、より居心地のよい図書館にしていきたいと思えます。

附属図書館運営委員会名簿

附属図書館	館長	○野村俊明	工学部	分館長	○田坂雅保
人文学部	助教授	○吉田正明		助教授	水野勉
	助教授	轟亮	農学部	分館長	○柴田久夫
教育学部	分館長	○益地憲一		助教授	廣田満
	助教授	和田哲也	繊維学部	分館長	平井利博
経済学部	教授	○後藤泰一		助教授	○松瀬丈浩
	助教授	西村直子	事務局	事務局長	金谷勝典
理学部	教授	○真次康夫	(オブザーバー)		
	教授	佐藤利幸	医療短大	助教授	鈴木治郎
医学部	分館長	○村瀬澄夫			
	教授	佐々木克典			

(○印は収書委員、平成12年9月30日現在)

業務日誌

平成12年

- 3月9日 全学図書関係係長会議（平成11年度第3回）
- 3月17日 人文・経済・理学部運営委員懇談会（中央館会議室）
- 3月17日 大学図書館情報化担当者会議〔学術情報センター〕
（東京都学術総合センター／資料サービス係：桃井）
- 4月6日 平成12年度新2年生対象図書館利用ガイダンス実施（農学部分館）
- 4月10-11日 平成12年度新生等図書館利用ガイダンス実施（中央館）
- 4月14日 館長・分館長懇談会（中央館会議室）
- 4月20日 人文・経済・理学部運営委員懇談会（中央館会議室）
- 4月27-28日 第51回北信越地区国立大学図書館協議会
（富山市／館長、事務部長、情報管理課長）

- 5月17日 全学レファレンス担当者会議（中央館会議室）
- 5月23日 平成12年度国立大学附属図書館事務部課長会議
（東京医科歯科大／事務部長、情報管理課長、情報サービス課長）
- 5月26日 附属図書館運営委員会（平成12年度第1回 SUNS使用）
附属図書館収書委員会（平成12年度第1回 SUNS使用）
信州大学附属図書館備付資料収集方針制定
- 6月12-16日 平成12年度授業公開に伴う附属図書館案内（全学）
- 6月26日 館長・分館長懇談会（SUNS使用）
附属図書館自己点検・評価実施委員会（平成12年度第1回SUNS使用）
- 6月28-29日 第47回国立大学図書館協議会総会（金沢市／館長、事務部長、情報サービス課長）
- 7月4日 人文・経済・理学部運営委員懇談会（中央館会議室）
- 7月6日 北信越地区電子ジャーナル担当係長等会議（富山大／情報管理課：金井）
- 7月10-28日 平成12年度大学図書館職員長期研修（図書館情報大ほか／雑誌情報係：城倉）
- 7月10・14日 平成12年度大学図書館職員長期研修講義のSCSによる受講
（学内各館室職員・県内大学短大図書館職員）
- 7月13日 平成12年度図書館オリエンテーション実施（農学部分館）
- 7月18日 附属図書館運営委員会（平成12年度第2回 SUNS使用）
附属図書館収書委員会（平成12年度第2回 SUNS使用）
- 7月28-30日 平成12年度図書館等職員著作権実務講習会
（東京大／図書情報係：大内、工学情報係：滝口、農学情報係：野口）
- 7月31日 全学図書関係係長会議（平成12年度第1回）
附属図書館自己点検・評価WG会議（平成12年度第1回）
- 8月21日 次期システム検討WG会議（中央館会議室）
- 8月31日 平成12年度NACSIS-IR地域利用説明会（国立情報学研究所と共催）
- 9月4-8日 事務情報化要員養成のための実地研修
（長野市信州大学総合情報処理センター／資料サービス係：丸山）
- 9月11-29日 第51回文部省会計事務特別研修
（国立オリンピック記念青少年総合センター／総務係：中村）
- 9月25日 館長・分館長懇談会（SUNS使用）
- 9月28日 全学図書関係係長会議（平成12年度第2回）
附属図書館自己点検・評価WG会議（平成12年度第2回）
- 9月29日 全学ILL担当者業務連絡会（中央館会議室）

人 事 異 動

日付	区分	新官職名等	氏名	旧官職名等
12. 3. 27	育児休業	繊維学情報係	武田 佳代	平成12年10月31日まで
3. 30	辞職		藤田 秀子	情報管理課図書情報係事務補佐員
	辞職		坂本 綾子	情報管理課雑誌情報係事務補佐員
	辞職		福田 佳江	情報サービス課資料サービス係事務補佐員[時間外担当]
	辞職		廣岩 俊幸	工学情報係事務補佐員[時間外担当]
	辞職		清水 源太郎	繊維学情報係事務補佐員[時間外担当]
4. 1	転入	情報管理課総務係長	永原 義人	総務部人事課任用第2係長

日付	区分	新官職名等	氏名	旧官職名等
12. 4. 1	転入	情報サービス課資料サービス係事務補佐員	日野杉 匡大	新規採用 [時間外担当]
	転入	工学情報係	小林 香代子	工学部社会開発工学科
	転入	工学情報係事務補佐員	小林 秀 樹	新規採用 [時間外担当]
	転入	農学情報係事務補佐員	根市 祐美子	農学部学務係事務補佐員
	転入	繊維学情報係事務補佐員	天満 哲 司	新規採用 [時間外担当]
	転入	繊維学情報係事務補佐員	浜崎 暢 央	新規採用 [時間外担当]
	転出	学生部厚生課専門職員（共通教育企画）	佐々木 善 久	情報管理課総務係長
	転出	工学部共通講座	清水 幸 直	工学情報係
	転出	農学部経理係事務補佐員	田中 美 紀	農学情報係 事務補佐員
	館内異動	教育学情報係長	峯村 武	繊維学情報係長
	館内異動	工学情報係長	北澤 文 男	教育学情報係長
	館内異動	繊維学情報係長	杉本 詔 守	工学情報係長
	館内異動	情報サービス課学術情報係	小林 雅 範	医学情報係
	館内異動	医学情報係	川西 玲 子	情報管理課図書情報係
	館内異動	情報管理課図書情報係事務補佐員	中沢 亜 弓	情報サービス課資料サービス係事務補佐員
	館内異動	情報管理課雑誌情報係事務補佐員	後藤 優 子	情報サービス課学術情報係事務補佐員
	館内異動	情報サービス課資料サービス係事務補佐員	塚田 理 絵	情報管理課総務係事務補佐員
	昇任	情報管理課図書情報係主任	大内 佳 子	情報管理課図書情報係
	昇任	農学情報係主任	矢島 早百合	農学情報係
	臨時任用	繊維学情報係事務補佐員	永井 玲 子	平成12年10月31日まで
4.15	辞職		小林 雅 範	情報サービス課学術情報係
4.16	館内異動	情報サービス課学術情報係	田村 さおり	医学情報係
5. 1	採用	情報管理課図書情報係事務補佐員	赤 廣 春 枝	
7.31	任期満了		野村 俊 明	館長（理学部教授・併任）
	辞職		熊谷 秀 之	農学情報係事務補佐員 [時間外勤務]
	辞職		星野 安 信	農学情報係事務補佐員 [時間外勤務]
8. 1	再任		野村 俊 明	館長（理学部教授・併任）

*（ ）内は旧官職名簿

花 信 第 8 号 2000年 9 月 30 日 [年 2 回 発行]

■ 編 集 花信編集委員会（菅原英一・金井忠彦・伊藤光博・丸山恭子・瀬尾明範）

■ 発 行 信州大学附属図書館

〒390-8621 松本市旭 3 - 1 - 1

TEL 0263 (37) 2174・FAX 0263 (33) 5833

URL:http://shinlis2.shinshu-u.ac.jp/

E-mail: jja0141@gipac.shinshu-u.ac.jp